

# いのちと地域を守る

相馬市 五十嵐ひで子さん(65) 語り部から 多賀城市 垣上 睦享さん(40)



多賀城市の観光には無事、危機感が薄かったので、早かったら、避難中に緊急避難口3000人の従業員。車を使え、また車の避難を諦め、わが子を背負って逃げた。避難先は避難所だったので、そこが良かった。避難先は避難所だったので、そこが良かった。避難先は避難所だったので、そこが良かった。

## 迅速な情報把握必要



## すぐに逃げていれば

わたしが津波を察知したのは、夫が泣きだしたときです。夫が泣きだしたときです。夫が泣きだしたときです。夫が泣きだしたときです。夫が泣きだしたときです。



【参加して】家庭と地域でできることと役割を分けて考えるべきだった。【八久保真司さん(45)】



【震災の教訓】消防団員が大勢犠牲になった。無理させないことを、共通の認識にしないと行けない。【藤田和幸さん(45)】



【震災の教訓】貝の歯は貝身を守る。「津波でんでんこ」の精神に学ばなければいけない。【中村政春さん(50)】



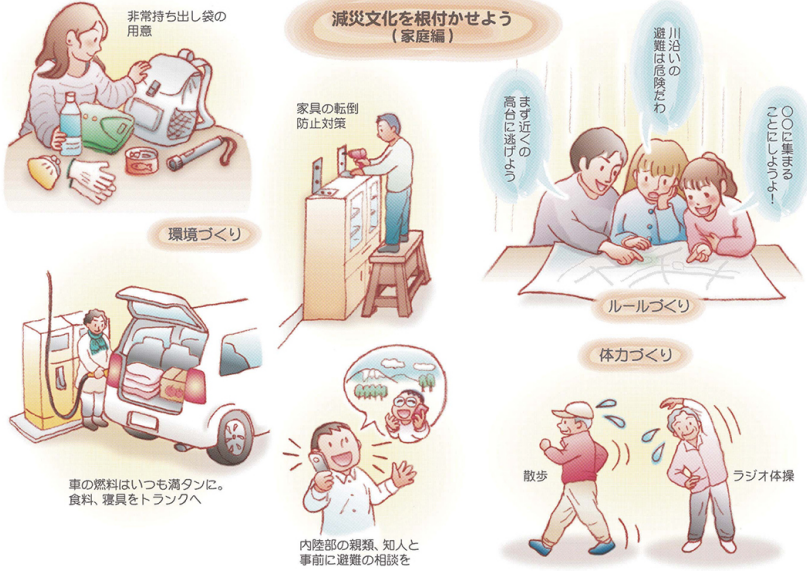
【参加して】逃げるのが大切だ。思えば、途中で救助が必要な人がいたらどうしたらいいだろう。【山口素典さん(39)】



【参加して】体験を共有し、機嫌を良くし、家族や地域を守りたい。【藤田信広さん(37)】

### ■むすび塾に参加して

愛知・田原市堀切校区



## 文化としての備え 定着を



木村 拓郎さん 復興支援機構構想部長 災害への対策を継続するため、【参加して】体験を共有し、機嫌を良くし、家族や地域を守りたい。【藤田信広さん(37)】

東日本大震災の教訓を生かすため、河北新報社は地域住民らと一緒に地震・津波に備える巡回ワークショップ「むすび塾」を開いています。名称には、地域と人、人と人のつながりを強め、防災・減災に結び付けていきたいとの思いを込めました。東北に加え、南海トラフの巨大地震が心配される地域などで開催し、将来の災害に備えを促します。